

—『野生の教養 II』（法政大学出版局）書評会—

カオスによる共同性、 あるいは基盤的アナキズム

昨年発刊された『野生の教養II——人につカオスがある』に対し、名うての書評家たちがユーモア＝情熱を込めて問いかけをしていただき、上記本の執筆者たち(教養研教員スタッフ)から、また真剣＝ユーモアを込めて応答していただく企画です。

会場 明治大学和泉キャンパス 和泉図書館ホール

12月13日(土) 13時開場 14時開始

開会の辞 丸川哲史 教養デザイン研究科長・政治経済学部教授

趣旨説明 岩野卓司 教養デザイン研究科・法学部教授

●第1セッション:

司会 薩摩秀登 教養デザイン研究科・経営学部教授

発題者 栗原康 アナキスト・東北芸術工科大学非常勤講師

●第2セッション:

司会 丸川哲史

発題者 究極 Q太郎 詩人

●第3セッション:

司会 虎岩直子 教養デザイン研究科・政治経済学部教授

発題者 郷原佳以 東京大学教授、フランス文学者

+全体討議

●発題者プロフィール

栗原康

1979年埼玉県生まれ。東北芸術工科大学非常勤講師。アナキズム研究。

著書に「アナキズム Q&A」(筑摩書房)、「幸徳秋水伝」(夜光社)、「サボる哲学」(NHK出版新書)など。ビール、長瀬剛、日本酒が好き。

究極 Q太郎

1967年生まれ、埼玉県出身。詩人。

1980年代半ばより「親元でも施設でもなく地域で生活する」重度障害者の介護を始める。また、だめ連のたまり場のなスペース「早稲田あかね」の立ち上げに関わる(1998年)。「季刊 福祉労働」(現代書館)編集委員。詩集に「散歩依存症」(現代書館・2024年)がある。

郷原佳以

1975年生。東京大学教員。専門フランス文学。著書に

「文学のミニマル・イメージ モーリス・ブランショ論」(左右社・2011年、2020年)、

論文に「非人称的な特異性のために——ブランショの「文学とは何か」」

塚本昌則・鈴木雅雄編「〈現実〉論序説」(水声社・2024年)など。

I部II部とも入場無料・申込不要
どなたでも参加できます。

連絡先: 大学院事務室(教養デザイン研究科) humanity@mics.meiji.ac.jp

明治大学大学院教養デザイン研究科主催 特定課題講座「地域環境と人」第Ⅱ部
—広州と高円寺を繋ぐカルチュラルムーブメント—

中国広州市内部には多くの芸術家やアクティビストがコミュニティを作って様々な活動をしています。実はその一部が、東京にも流れ込んでいます。富裕層中国人とはまた違った、行動力とセンスを持つ若手の芸術家たちに存分に話していただく企画です。

中国若者 コミュニティ運動

12月20日(土) 13時開場 14時開始

会場 明治大学和泉キャンパス 和泉図書館ホール

司会 加藤徹 教養デザイン研究科・法学部教授

趣旨説明 丸川哲史 教養デザイン研究科長・政治経済学部教授 通訳 李佳 (東京大学大学院生)

使用言語 中国語 (日本語通訳付き)

登壇者

陳逸飛 (アートアクティビスト)

馮俊華 (編集者、出版業、アクティビスト)

万青 (ビデオアーティスト)

コメンテーター 鈴木将久 (東京大学教授)

+全体討議

●登壇者プロフィール



陳逸飛 (チェン・イーフェイ)

1996年中国福建省漳浦生まれ。

芸術グループ「刺紙」、「夹山改染 Jasagala」のメンバー、発起人。
コミュニティ・アート、DIY、自己組織化をめぐる創作実践と研究を展開。

2018年、中国中央美術学院版画学科を卒業。

2024年〜ウィーン美術アカデミーに留学。

2024年、横浜トリエンナーレに参加。



馮俊華 (フォン・ジュインホァー)

編集者、出版者、ライター。

集团的創造と実践、「知」の文脈の構築などメディア言語の刷新に焦点を当て、
広州において複数のオルタナティブ・スペースの創設と発展に携わった。

「副本制作 (Copy Production)」の創設者であり「44 劇場」の長年のメンバー、

「折疊の房間 (Folding Room)」と「一起練功 (Practicing Together)」の共同創設者でもある。



万青 (ワン・チン)

1993年重慶生まれ。2015年に中山大学新聞学部を卒業。

主に広州と四省の交差点にある武陵山地区の間を往復し、

ビデオ制作、パフォーマンスその他の方法を駆使して自分の経験を更新しつつ、重層的に活動している。

五行鍼治療の実践者でもある。



Ⅰ部Ⅱ部とも入場無料・申込不要
どなたでも参加できます。

連絡先: 大学院事務局 (教養デザイン研究科) humanity@mics.meiji.ac.jp
本企画は科研 (C) 21K00322 (代表: 鈴木将久) の助成を受けています。